

アスパラガス「ふくきたる」の萌芽特性

福島県農業総合センター 作物園芸部 野菜科

1 部門名

野菜—アスパラガス—生理・生態

2 担当者名

大竹祐一

3 要旨

本県育成アスパラガス品種「ふくきたる」は萌芽が早いことが特性として知られているが、5℃以下の低温遭遇時間と萌芽との関係は明らかにされていなかった。このため、低温遭遇時間と萌芽との関係について調査した結果、秋の萌芽停止後、低温遭遇時間が300時間までであれば、どの時期に保温を開始しても1週間程度で萌芽が再開することを明らかにした。

- (1) 「ふくきたる」は、萌芽が停止した後、5℃以下の低温に遭遇しなくても萌芽に適した環境下であれば4日で萌芽の再開が見られる(表1)。
- (2) 低温遭遇の有無にかかわらず、保温から萌芽までに要する日数にはほとんど差がない(表1)。
- (3) 15cmポリポットで株養成した1年生株を用いた試験の結果である。

表1 ふくきたるの5℃以下低温遭遇時間の違いによる萌芽への影響

低温遭遇時間 ^z	保温から萌芽 ^y までの日数(日)	保温から萌芽までの積算地温(°C)
0h	4.0	85.0
50h	6.0	107.4
100h	6.5	123.7
200h	4.5	87.1
300h	5.5	94.6

^z 低温遭遇時間算出方法

$$5^{\circ}\text{C以下の低温遭遇時間} = \sum \{ (5^{\circ}\text{C以下の積算時間} - 0^{\circ}\text{C以下の積算時間}) + 0^{\circ}\text{C以下の積算時間} \times 1.5 \}$$

^y 供試株10株のうち半数の5株目が萌芽した日までの保温開始からの日数

(試験条件)

目標低温遭遇時間到達後、地上部を刈り取り、別のガラス温室内の育苗ベンチに温床マットを設置した試験槽にポリポットを外した株を配置し、株の周囲には籾殻を充填した。保温前に培土中で伸長した若茎は切除した。温床マットの設定温度は20℃、温室の暖房設定温度は15℃とした。試験は1区10株、3反復で実施した。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～7年度
- (2) 研究課題名 主要野菜の安定生産技術の確立

5 主な参考文献・資料

春山実, 1981. ほう芽性からみたアスパラガスの休眠現象. 農耕と園芸, 36(1):83-85.